

世田谷区若者調査 報告書（概要版）

1. 調査概要

調査目的

本調査は「（仮称）世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）」の策定にあたり、区の若者を取り巻く実態や若者の意見を把握するとともに、これまでの若者施策について評価・検証し、さらに今後の子ども・若者施策の検討に資することを目的とする。

アンケート調査の概要

<調査対象、調査方法>

調査区分	調査対象	調査方法
① 無作為抽出	区に住民登録のある15～29歳の若者のうち、住民基本台帳から抽出 6,000 人	調査依頼文のみ①郵送配布②施設・団体に配布し、①②ともインターネットによる回収
② 若者施設利用者等	世田谷区の主要な若者施設・団体等を利用している若者 500 人	

<調査時期> 令和5年 11 月 15 日(水)～12月6日(水)

<回収数> ①875 ②172

<調査項目> 受け取った施設・団体(②のみ)、基本属性、ふだんの生活、悩みや相談相手、将来、地域コミュニティ、区の施設(認知・利用状況)、子どもや若者の権利、区への希望

※②若者施設利用者等の調査結果は、報告書本文にのみ掲載。

ヒアリング調査の概要

<調査対象、調査方法>

調査区分	調査対象	調査方法
① 若者	区の主要な若者施設・団体等を利用している若者(19 施設・団体)	インタビュー調査(対面)
② 支援者	施設・団体等を運営している職員(14施設・団体)	

<調査時期> 令和 5 年 10 月 26 日(木)～11 月 29 日(水)

<回答者数> ①47 人 ②19 人

<調査項目> ①基本属性、居場所、地域活動への参加・参画、悩み・相談、意見反映、その他(役に立ちたいこと)
②基本属性、居場所、施設利用の促進及び地域活動への参加・参画、意見反映、その他(困りごと、区への要望)

※②支援者の調査結果は、報告書本文にのみ掲載。

図表のみかた

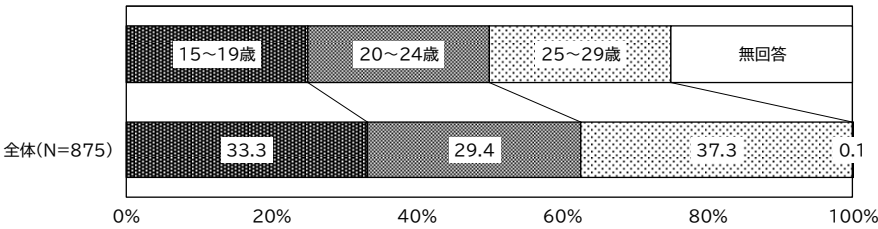
- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者全体の総数はN、対象を絞った回答者の総数をnと表記している。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも 100.0%にならない場合(例えば 99.9%、100.1%)がある。
- 3 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は 100%にならないことがある。また、グラフは原則多い順に並び替えている(「その他」、「ない」、「無回答」以外)、順番に意味がある場合は、選択肢順としている。
- 4 報告書本文及び概要版の設問文、グラフ中の表記、選択肢の表記を一部省略している。

2. アンケート調査(無作為抽出)

基本属性

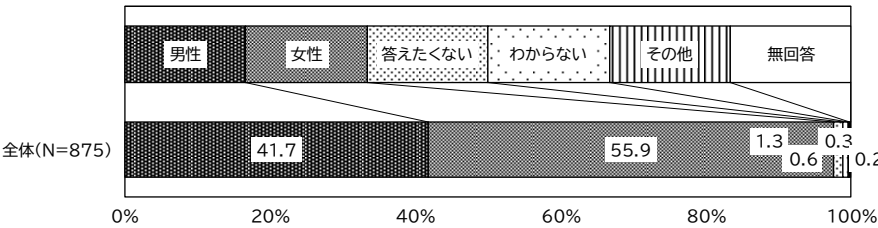
年代 (報告書本文5ページ)

「25～29 歳」が 37.3%と最も高く、平均年齢は 22.3 歳である。



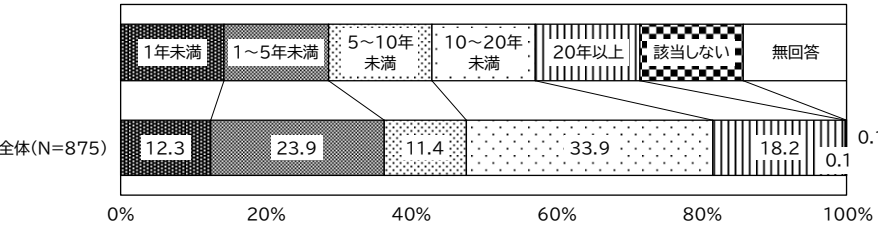
性別 (報告書本文5ページ)

性別は、「男性」が 41.7%、「女性」が 55.9%、「答えたくない」が1.3%、「わからない」が0.6%、「その他」が0.3%となっている。



居住年数 (報告書本文6ページ)

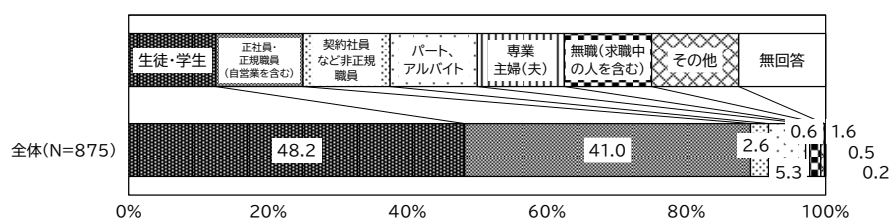
世田谷区の居住年数は、「10～20 年未満(33.9%)」が最も高く、「1～5年未満(23.9%)」、「20 年以上(18.2%)」が続いている。



就学・就業状況

(報告書本文8ページ)

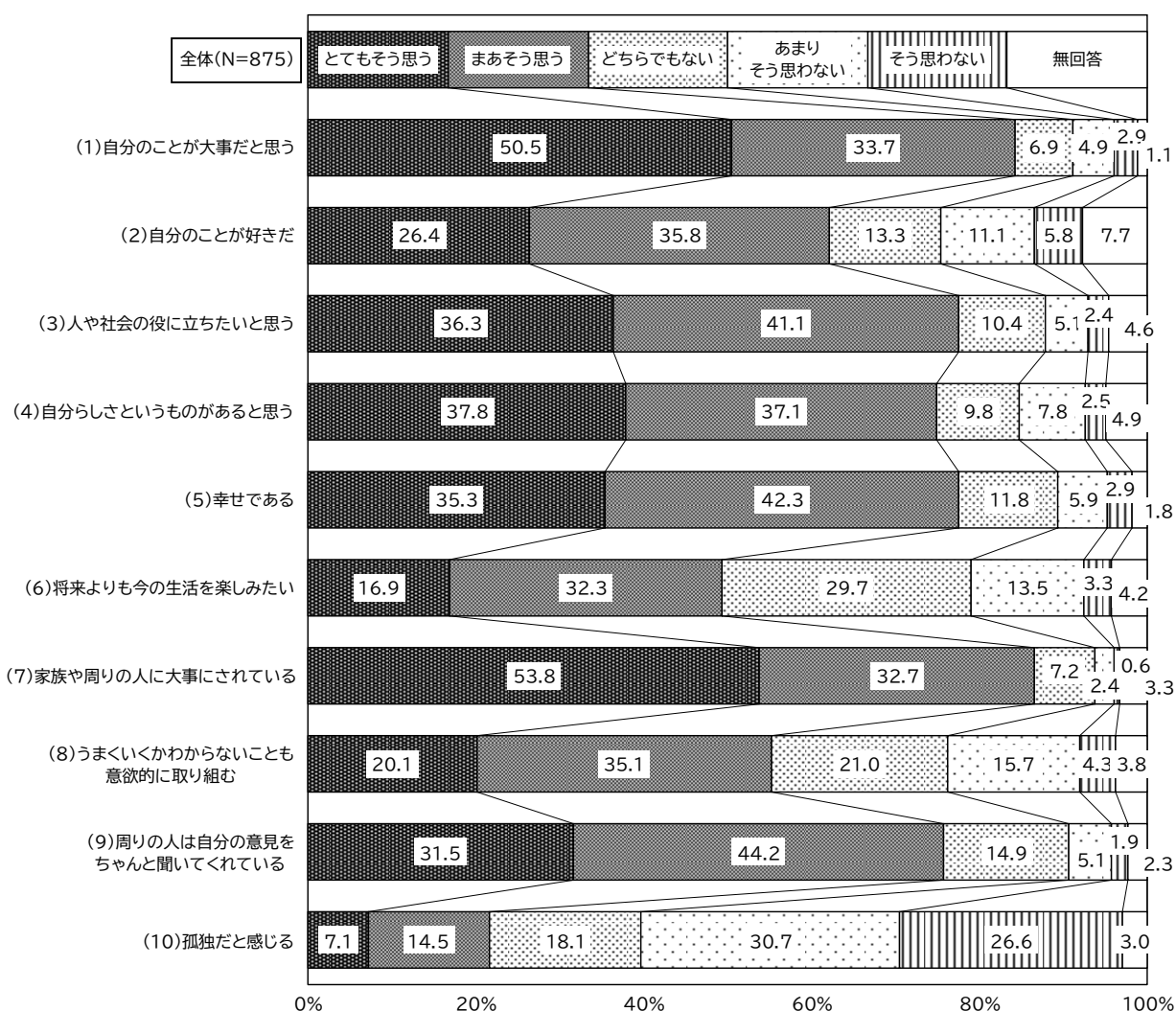
就学・就業状況は、「生徒・学生(48.2%)」が最も高く、「正社員・正規職員(自営業を含む)(41.0%)」、「パート、アルバイト(5.3%)」が続いている。



自分への思い

(報告書本文13ページ)

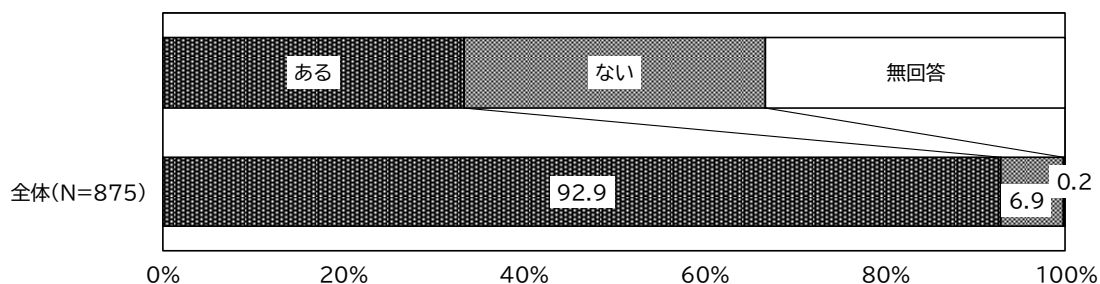
自分への思いは、『(7)家族や周りの人に大事にされている(86.5%)』で最も高く、『(1)自分のことが大事だと思う(84.2%)』、『(5)幸せである(77.6%)』が続いている。



ホッとでき、安心していられる場所の有無

(報告書本文22ページ)

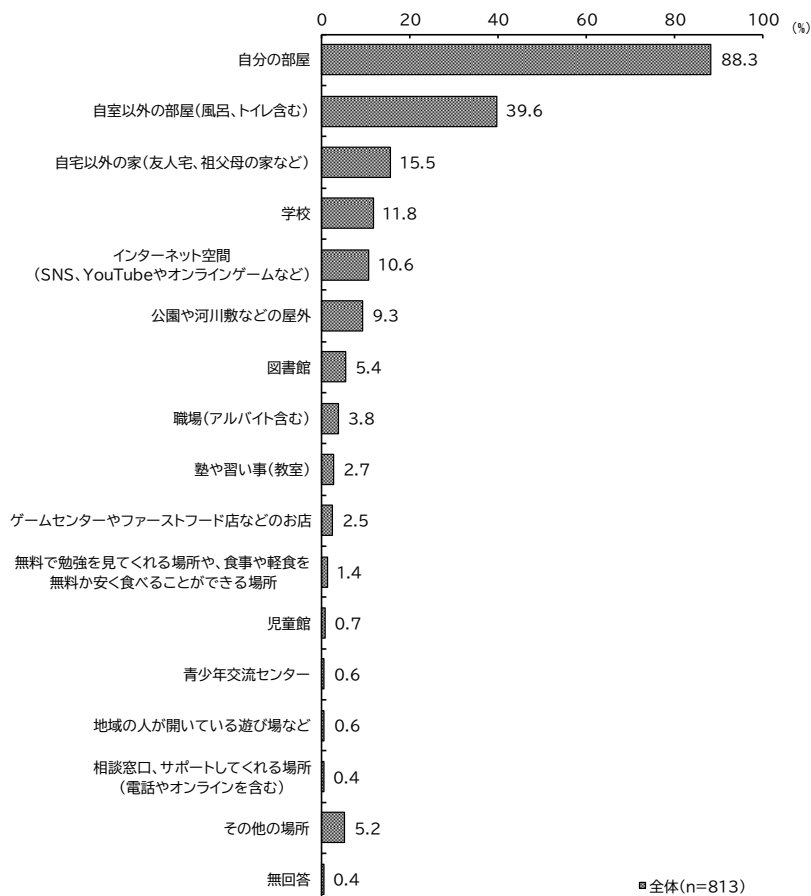
ホッとでき、安心していられる場所の有無は、「ある」が92.9%、「ない」が6.9%となっている。



ホッとでき、安心していられる場所

(報告書本文23ページ)

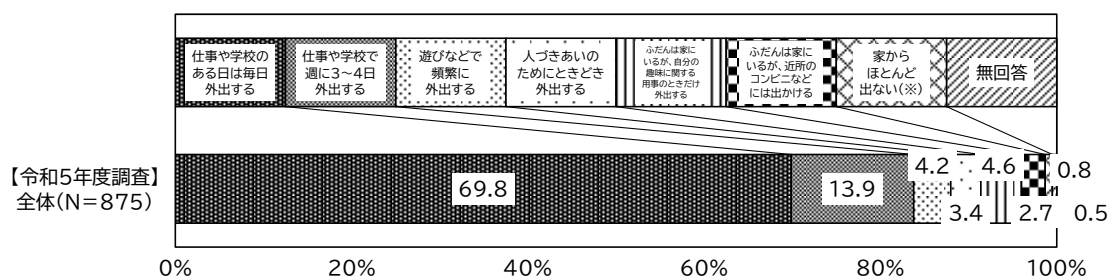
ホッとでき、安心していられる場所があると回答した人に、ホッとでき、安心していられる場所についてたずねたところ、「自分の部屋(88.3%)」が最も高く、「自室以外の部屋(風呂、トイレ含む)(39.6%)」、「自宅以外の家(友人宅、祖父母の家など)(15.5%)」が続いている。



外出頻度

(報告書本文28ページ)

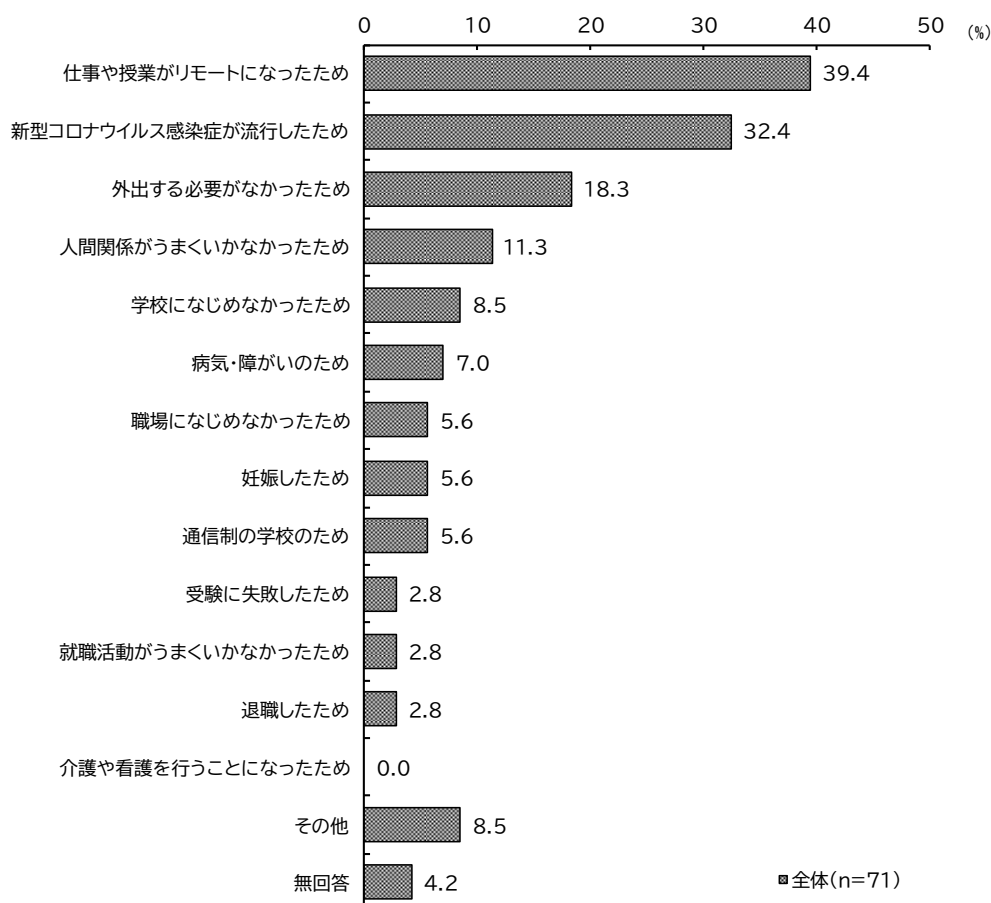
外出頻度が低い人(「ふだんは家にはいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」または「ふだんは家にはいるが、近所のコンビニなどには出かける」または「家からほとんど出ない」と回答した人)の割合は8.1%であり、平成30年度(3.7%)より4.4ポイント高くなっている。



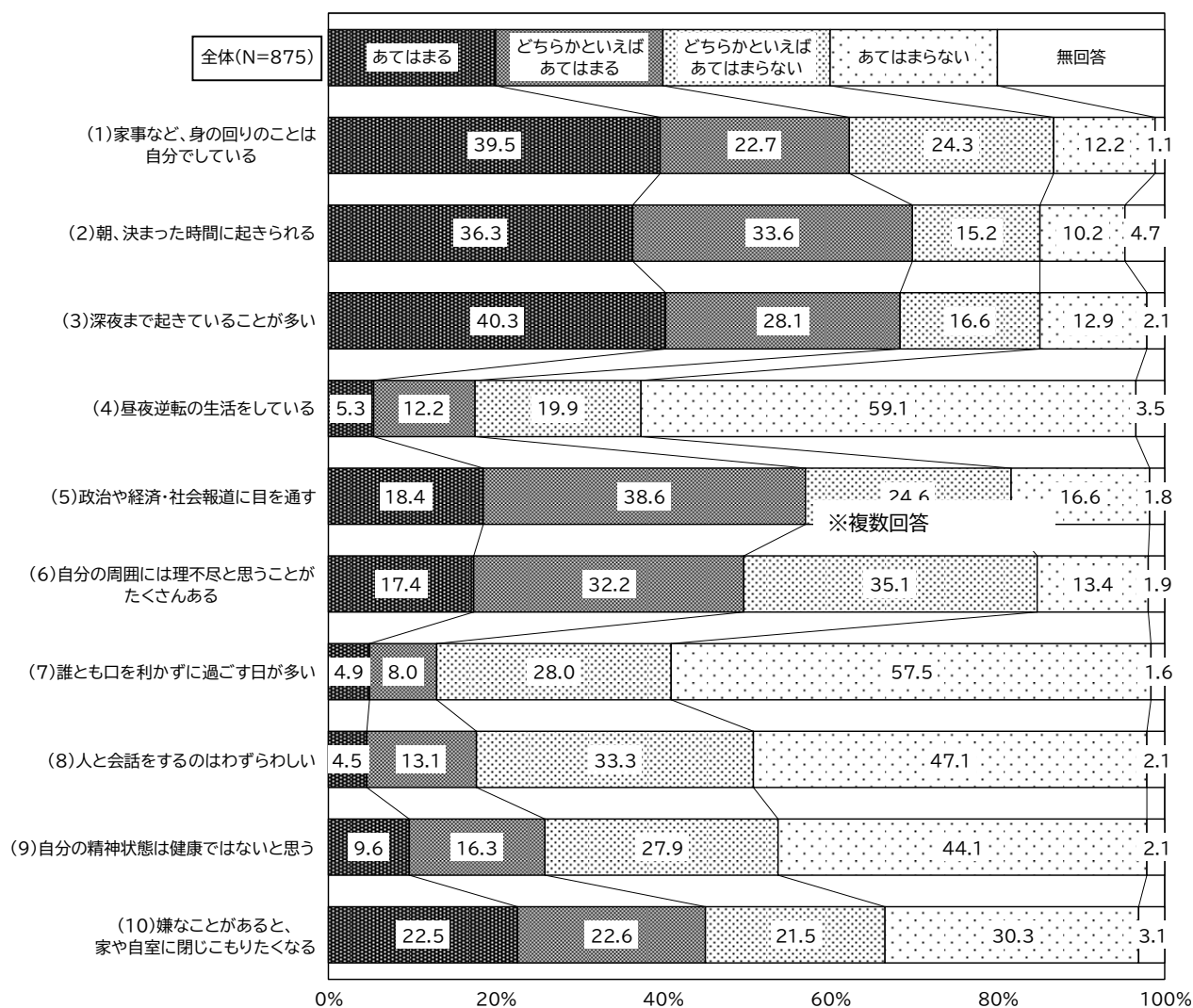
外出しなくなったきっかけ

(報告書本文30ページ)

外出頻度が低いと回答した人に、外出しなくなったきっかけについてたずねたところ、「仕事や授業がリモートになったため(39.4%)」が最も高く、「新型コロナウイルス感染症が流行したため(32.4%)」、「外出する必要がなかったため(18.3%)」が続いている。



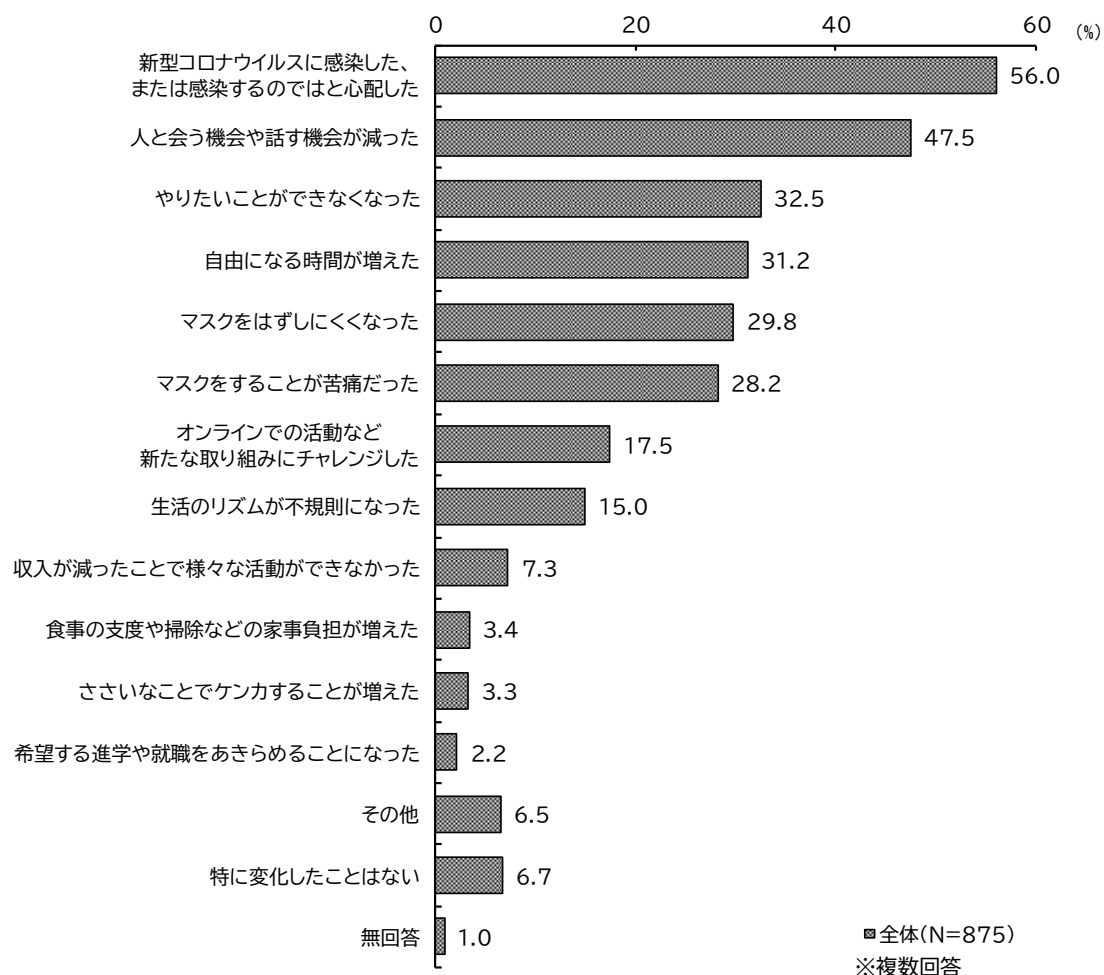
生活習慣、健康状態は、『あてはまる・計』(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計)の割合が『(2)朝、決まった時間に起きられる(69.9%)』で最も高く、『(3)深夜まで起きていることが多い(68.4%)』、『(1)家事など、身の回りのことは自分でしている(62.2%)』が続いている。



新型コロナウイルス感染症によって変化したこと、感じたこと

(報告書本文39ページ)

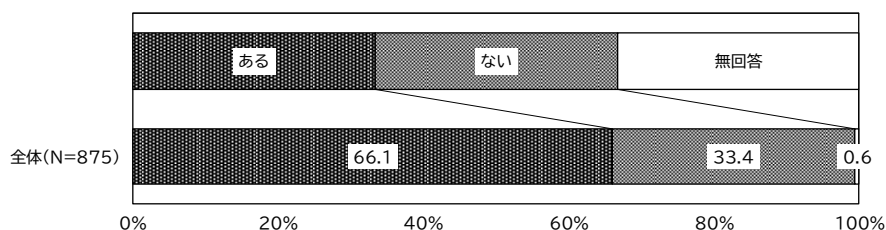
新型コロナウイルス感染症によって変化したこと、感じたことは、「新型コロナウイルスに感染した、または感染するのではと心配した(56.0%)」が最も高く、「人と会う機会や話す機会が減った(47.5%)」、「やりたいことができなくなった(32.5%)」が続いている。



悩んでいることや心配なことの有無

(報告書本文40ページ)

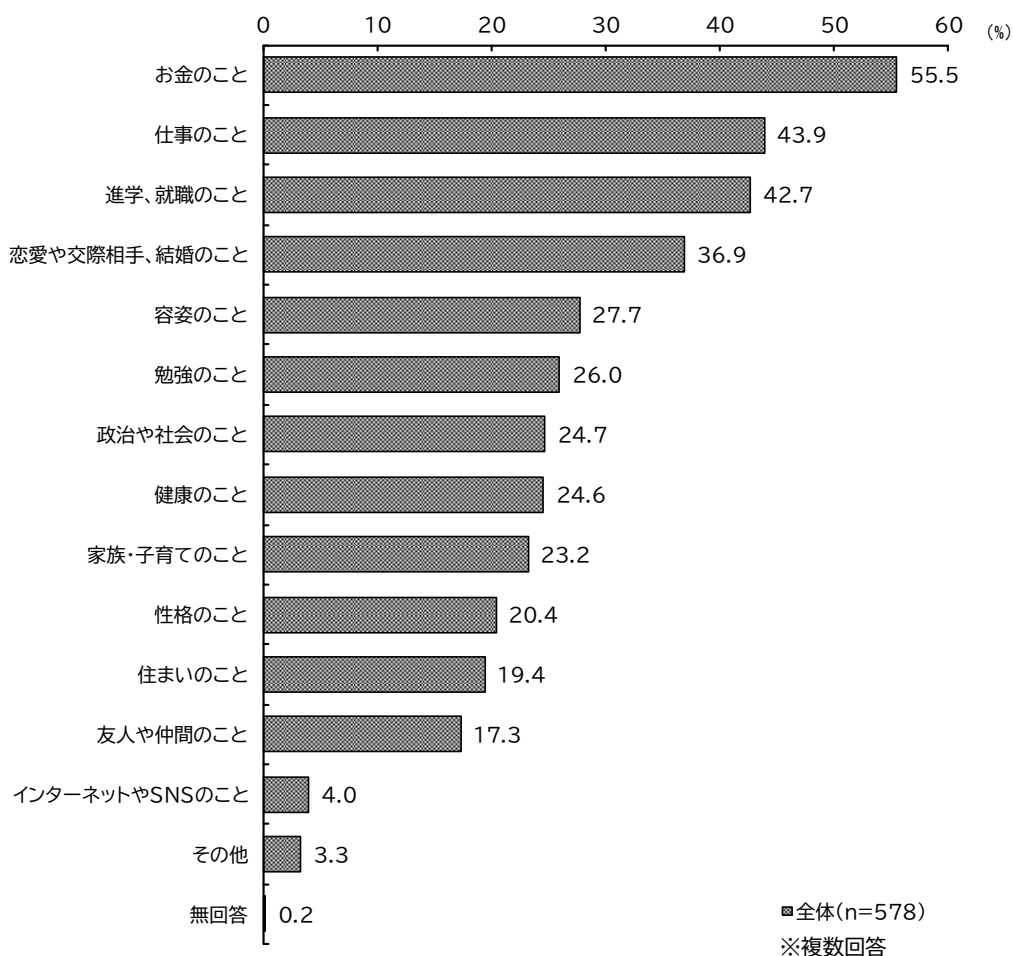
悩んでいることや心配なことの有無は、「ある」が66.1%、「ない」が33.4%となっている。



悩んでいることや心配なこと

(報告書本文41ページ)

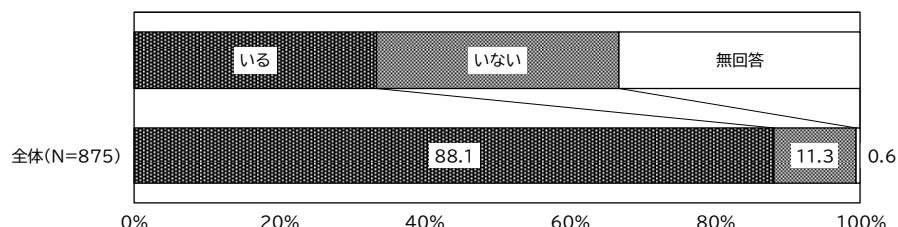
悩んでいることや心配なことがあると答えた人に、悩んでいることや心配なことについてたずねたところ、「お金のこと(55.5%)」が最も高く、「仕事のこと(43.9%)」、「進学、就職のこと(42.7%)」が続いている。



悩んでいることや心配なことを聞いてくれる人の有無

(報告書本文42ページ)

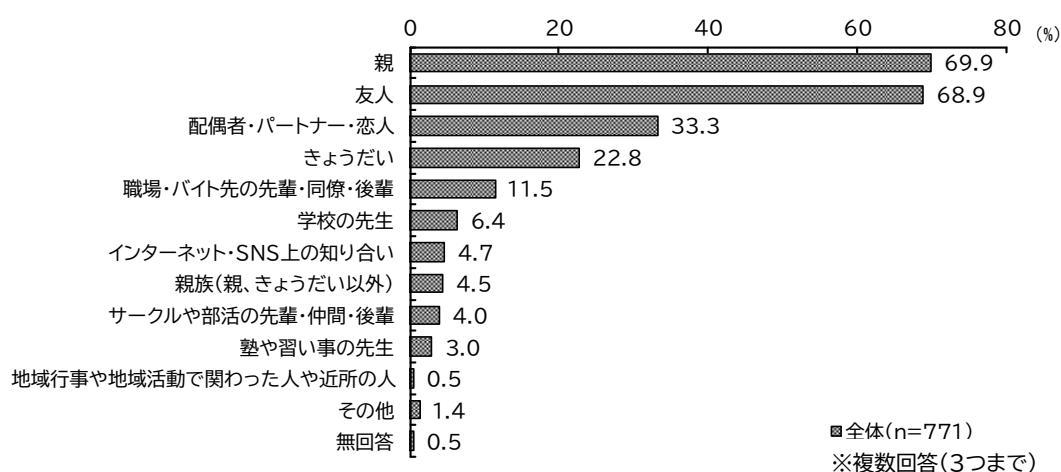
悩んでいることや心配なことを聞いてくれる人の有無は、「いる」が 88.1%、「いない」が 11.3%となっている。



悩んでいることや心配なことを聞いてくれる相手

(報告書本文43ページ)

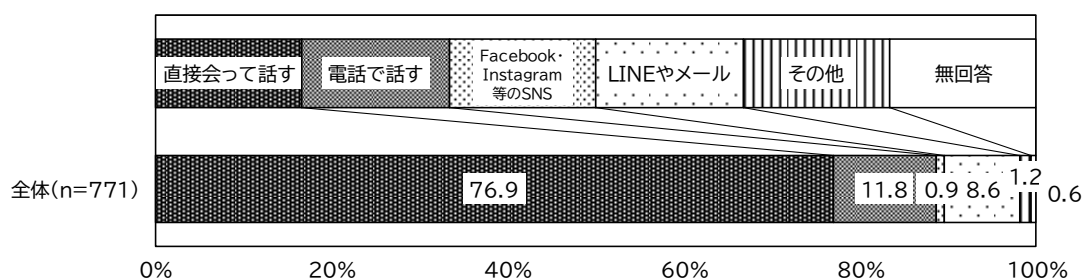
悩んでいることや心配なことを聞いてくれる人がいると回答した人に、悩んでいることや心配なことを聞いてくれる相手についてたずねたところ、「親(69.9%)」が最も高く、「友人(68.9%)」、「配偶者・パートナー・恋人(33.3%)」が続いている。



悩んでいることや心配なことを話す手段

(報告書本文43ページ)

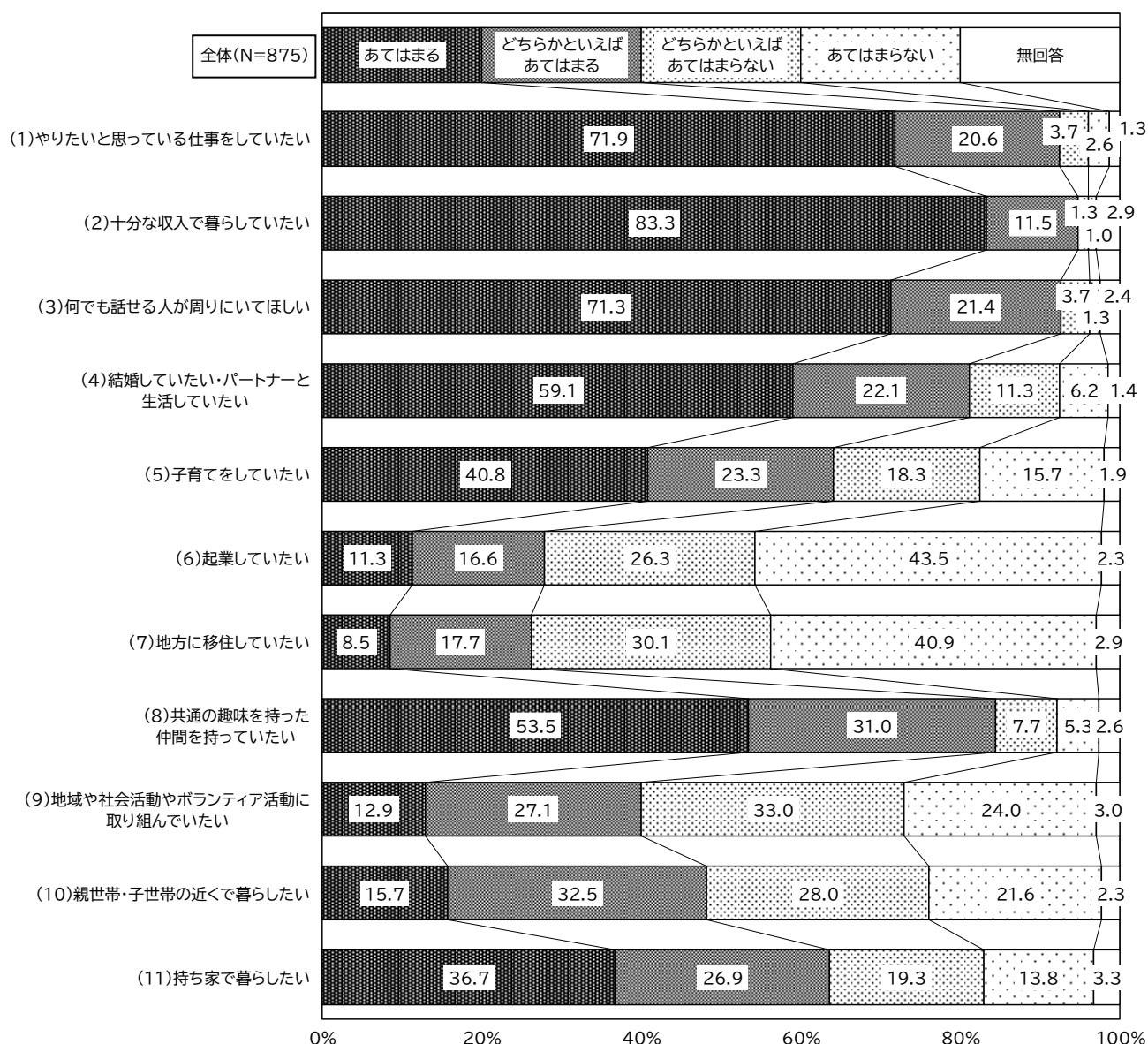
悩んでいることや心配なことを聞いてくれる人がいると回答した人に、悩んでいることや心配なことを話す手段についてたずねたところ、「直接会って話す(76.9%)」が最も高く、「電話で話す(11.8%)」、「LINEやメール(8.6%)」が続いている。



20 年後に希望する暮らし方

(報告書本文44ページ)

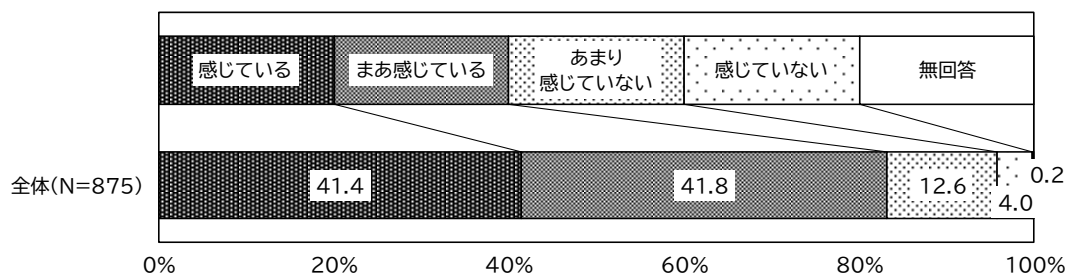
20 年後に希望する暮らし方は、《あてはまる・計》(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計)の割合が『(2)十分な収入で暮らしたい(94.8%)』で最も高く、『(3)何でも話せる人が周りにいてほしい(92.7%)』、『(1)やりたいと思っている仕事をしていたい(92.5%)』が続いている。



地域への愛着度

(報告書本文46ページ)

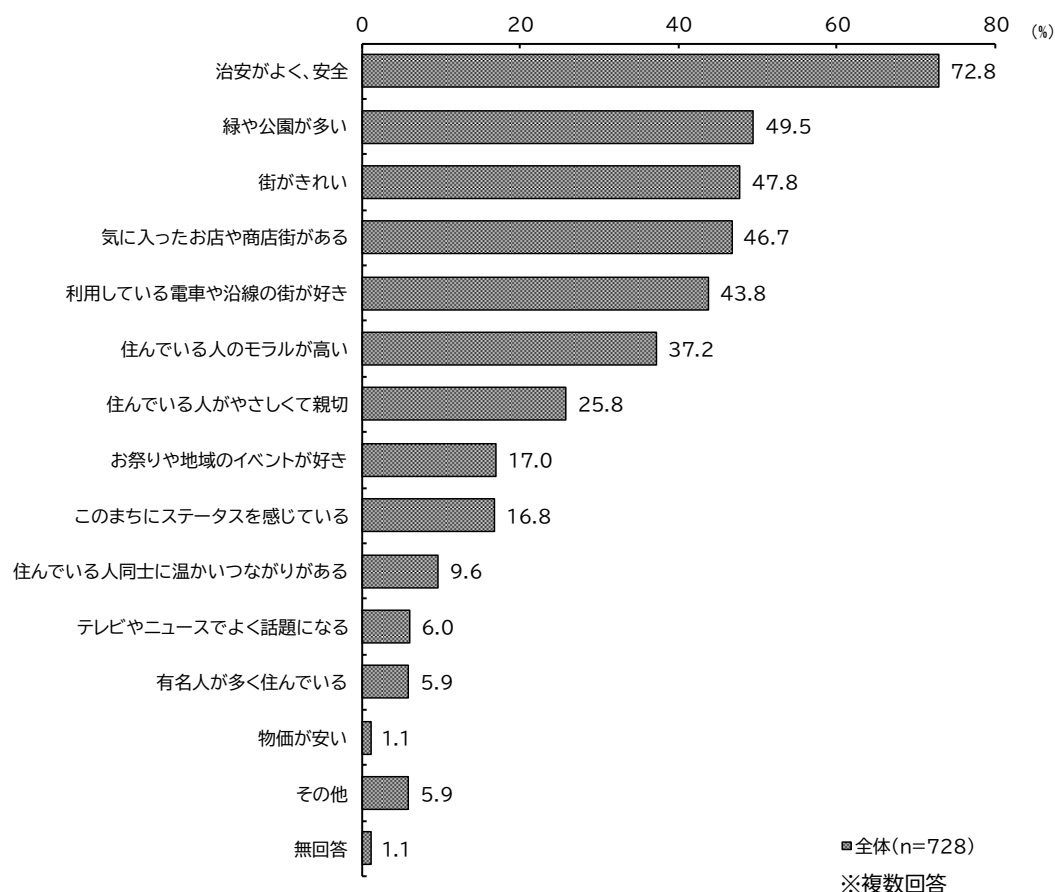
地域への愛着度は、「感じている」が 41.4%、「まあ感じている」が 41.8%、「あまり感じていない」が 12.6%、「感じていない」が4.0%となっている。



愛着を感じる理由

(報告書本文48ページ)

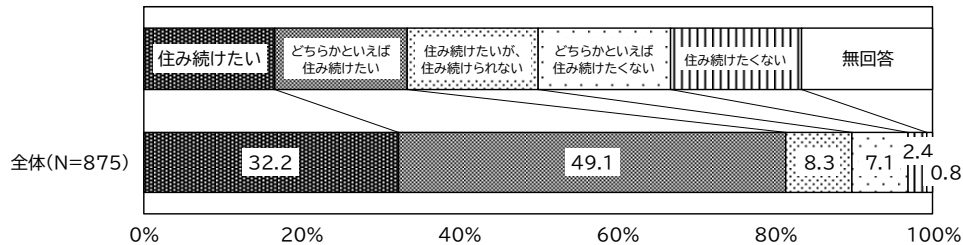
地域への愛着を感じている、または、まあ感じていると回答した人に、愛着を感じる理由についてたずねたところ、「治安がよく、安全(72.8%)」が最も高く、「緑や公園が多い(49.5%)」、「街がきれい(47.8%)」が続いている。



世田谷区への居住継続意向

(報告書本文50ページ)

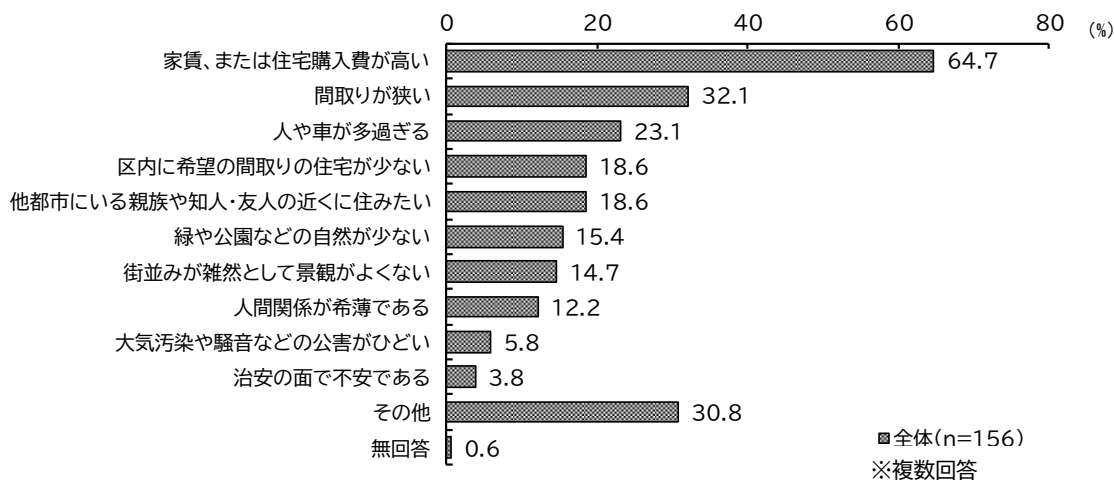
世田谷区への居住継続意向は、「住みたい」が 32.2%、「どちらかといえば住みたい」が 49.1%、「住みたいが、住み続けられない」が8.3%、「どちらかといえば住み続けたくない」が7.1%、「住み続けたくない」が2.4%となっている。



住み続けたくない理由

(報告書本文50ページ)

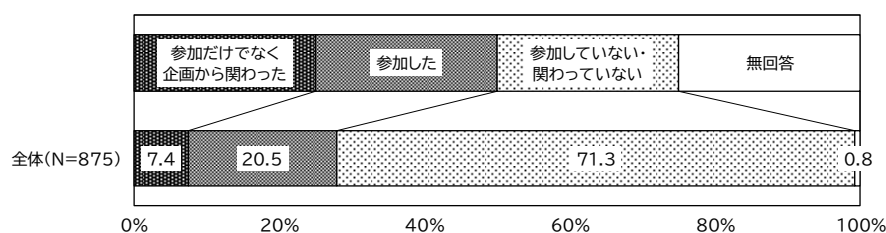
世田谷区に住み続けたいが住み続けられない、または、どちらかといえば住み続けたくない、または、住み続けたくないと回答した人に、その理由についてたずねたところ、「家賃、または住宅購入費が高い(64.7%)」が最も高く、「間取りが狭い(32.1%)」、「人や車が多過ぎる(23.1%)」が続いている。



学校や仕事以外の活動参加の有無

(報告書本文51ページ)

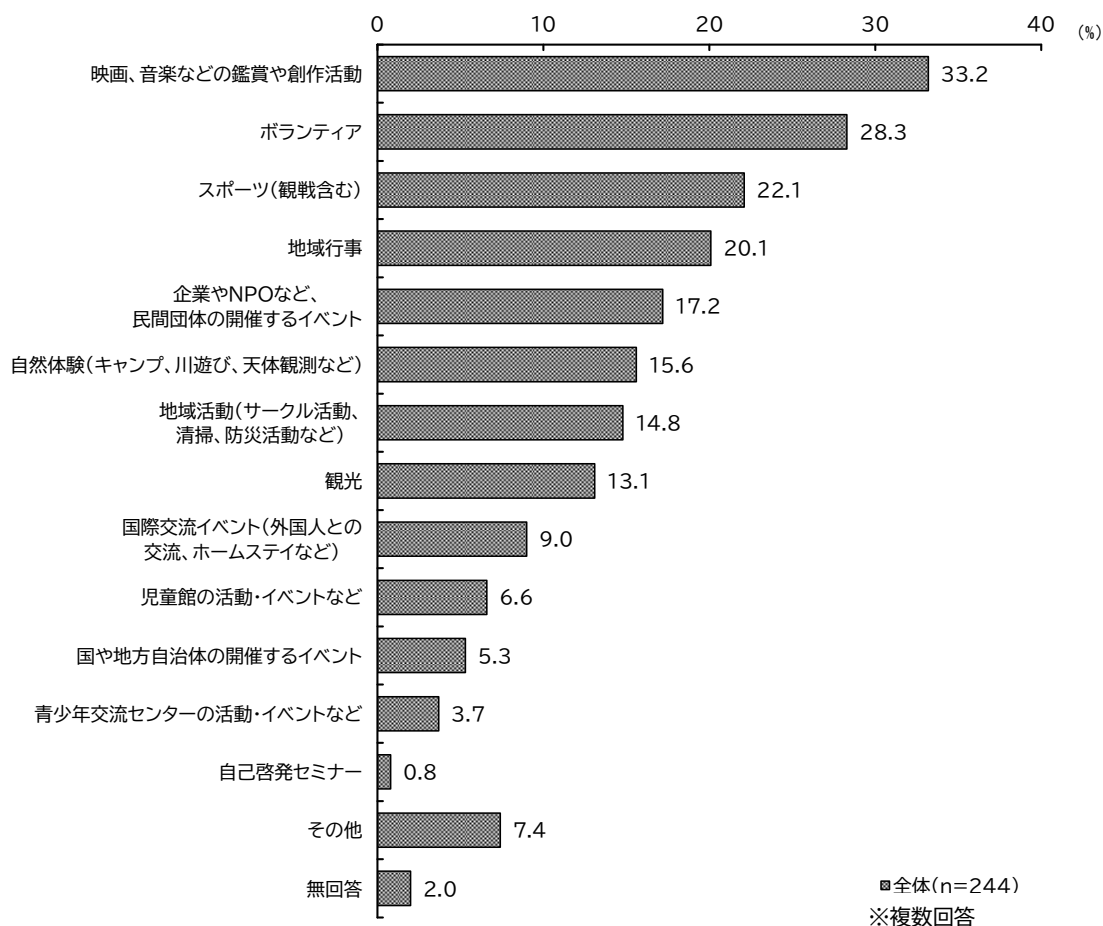
最近2、3年の学校や仕事以外の活動参加の有無は、「参加だけでなく企画から関わった」が7.4%、「参加した」が 20.5%、「参加していない・関わっていない」が 71.3%となっている。



活動の種類

(報告書本文53ページ)

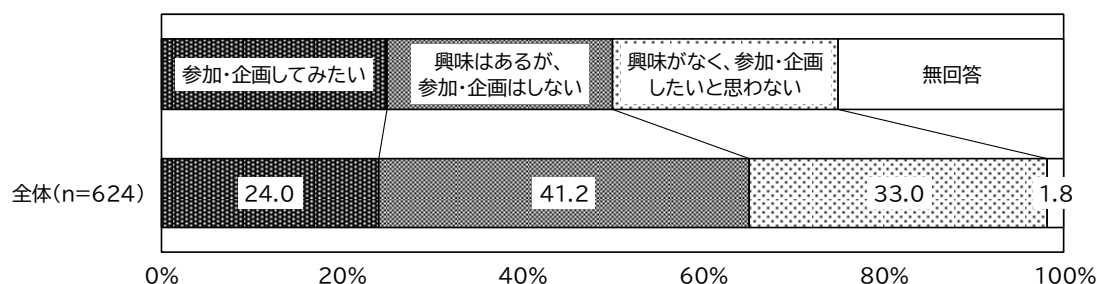
学校や仕事以外の活動に参加だけでなく企画から関わった、または、参加したと回答した人に、活動の種類についてたずねたところ、「映画、音楽などの鑑賞や創作活動(33.2%)」が最も高く、「ボランティア(28.3%)」、「スポーツ(観戦含む)(22.1%)」が続いている。



活動への参加意向

(報告書本文54ページ)

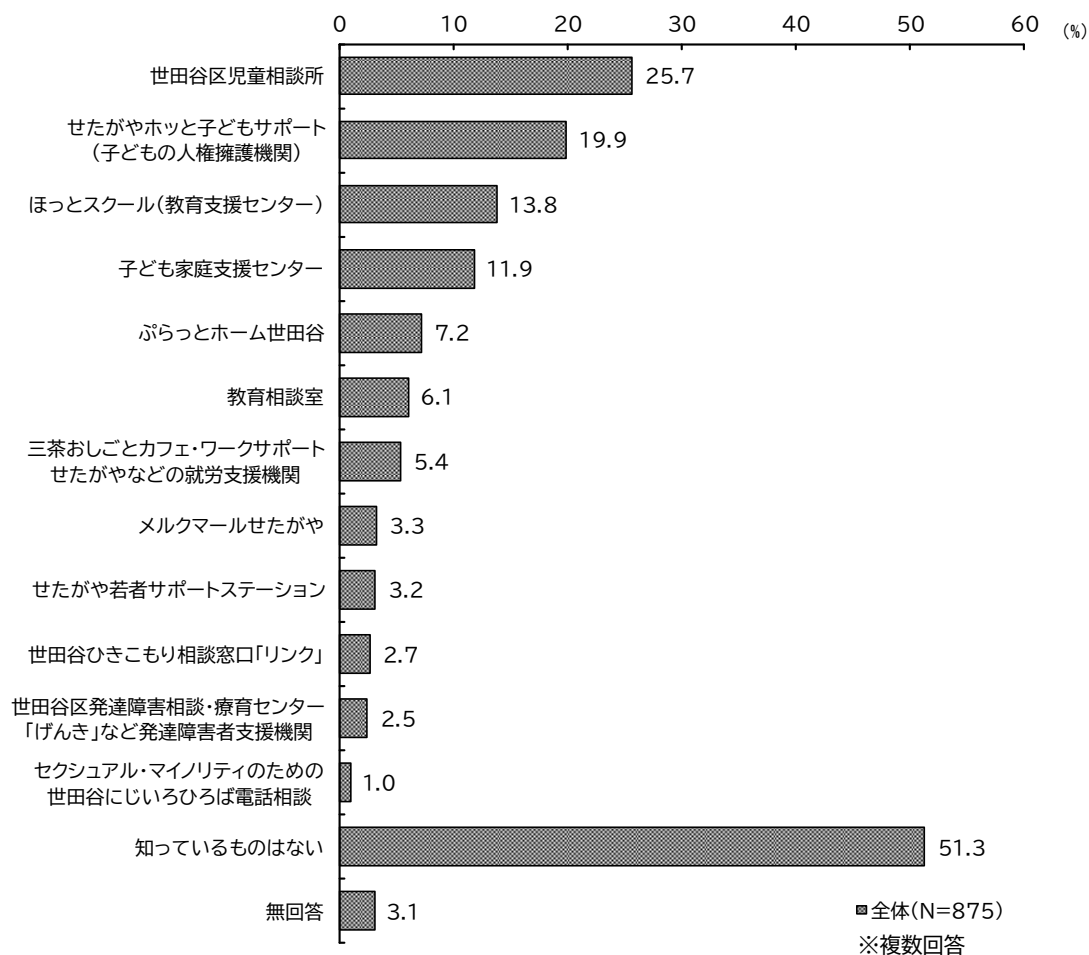
最近2、3年の学校や仕事以外の活動に参加していない・関わっていないと回答した人に、活動への参加意向についてたずねたところ、「参加・企画してみたい」が 24.0%、「興味はあるが、参加・企画はしない」が 41.2%、「興味がなく、参加・企画したいと思わない」が 33.0%となっている。



世田谷区の相談機関の認知状況

(報告書本文57ページ)

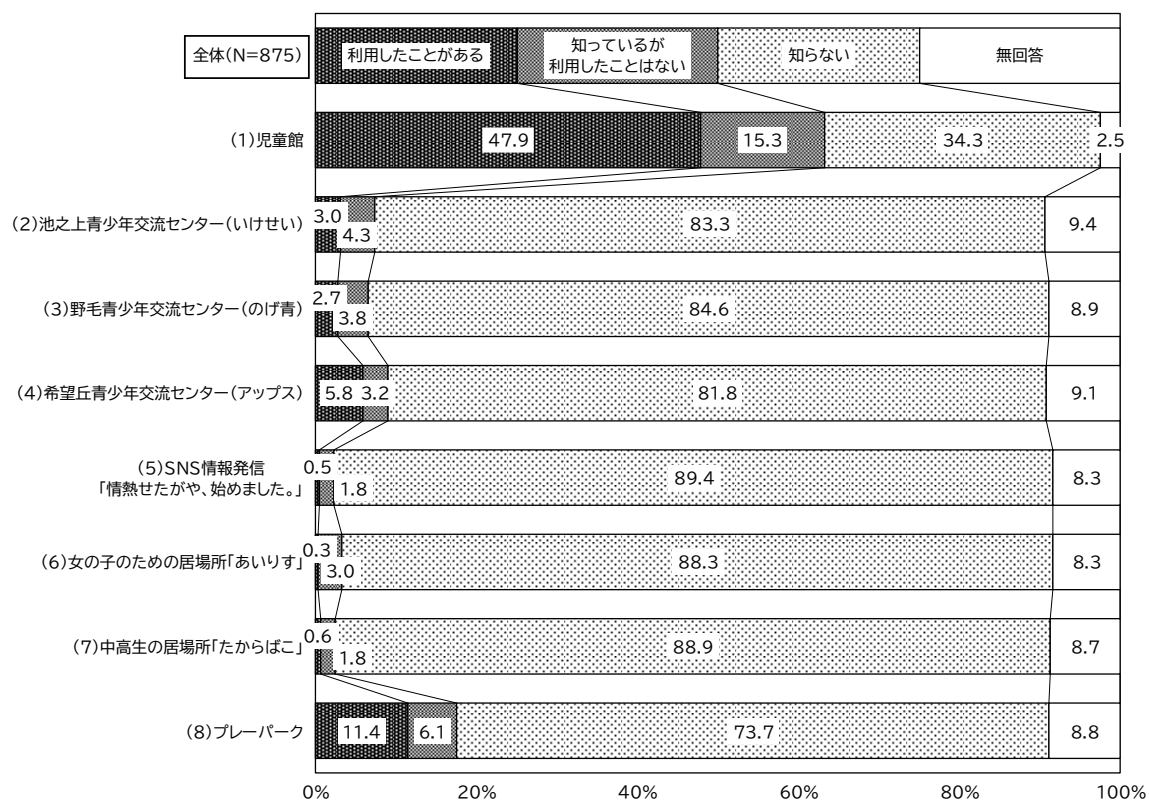
世田谷区の相談機関の認知状況は、「世田谷区児童相談所(25.7%)」が最も高く、「せたがやホッと子どもサポート(子どもの人権擁護機関)(19.9%)」、「ほっとスクール(教育支援センター)(13.8%)」が続いている。「知っているものはない」は51.3%と5割を超えている。



若者関連施設の利用状況

(報告書本文59ページ)

若者関連施設の利用状況は、「利用したことがある」の割合が『(1)児童館(47.9%)』で最も高く、『(8)プレーパーク(11.4%)』、『(4)希望丘青少年交流センター(アップス)(5.8%)』が続いている。

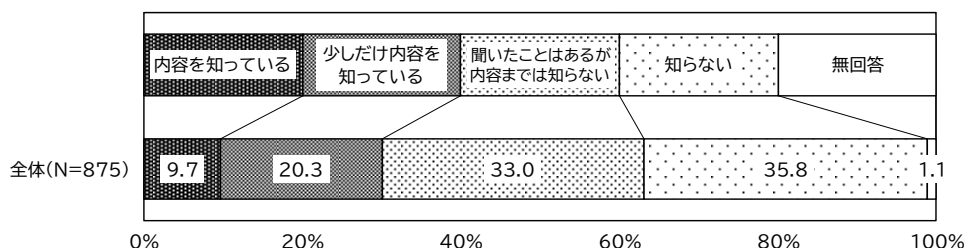


子どもや若者の権利

子どもの権利についての認知度

(報告書本文61ページ)

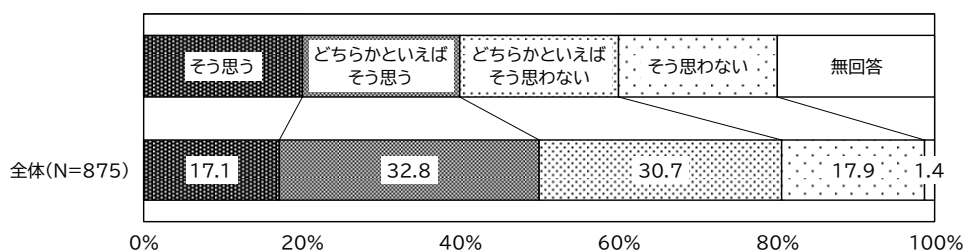
子どもの権利についての認知度は、「内容を知っている」が9.7%、「少しだけ内容を知っている」が20.3%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が33.0%、「知らない」が35.8%となっている。



世田谷区の制度・施策について意見を伝えたい意向の有無

(報告書本文63ページ)

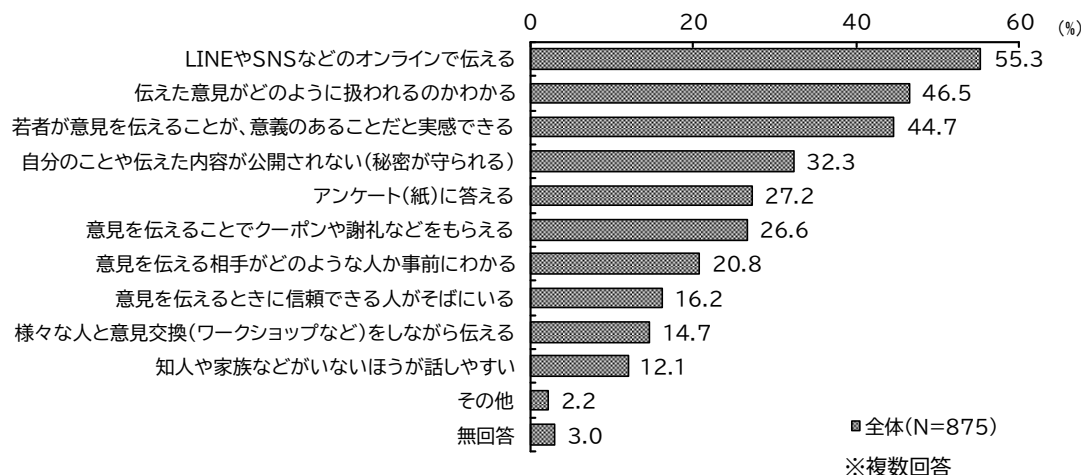
世田谷区の制度・施策について意見を伝えたい意向の有無は、「そう思う」が17.1%、「どちらかといえばそう思う」が32.8%、「どちらかといえばそう思わない」が30.7%、「そう思わない」が17.9%となっている。



世田谷区に対して意見を伝えやすい方法・手段

(報告書本文65ページ)

世田谷区に対して意見を伝えやすい方法・手段は、「LINEやSNSなどのオンラインで伝える(55.3%)」が最も高く、「伝えた意見がどのように扱われるのかわかる(46.5%)」、「若者が意見を伝えることが、意義のあることだと実感できる(44.7%)」が続いている。



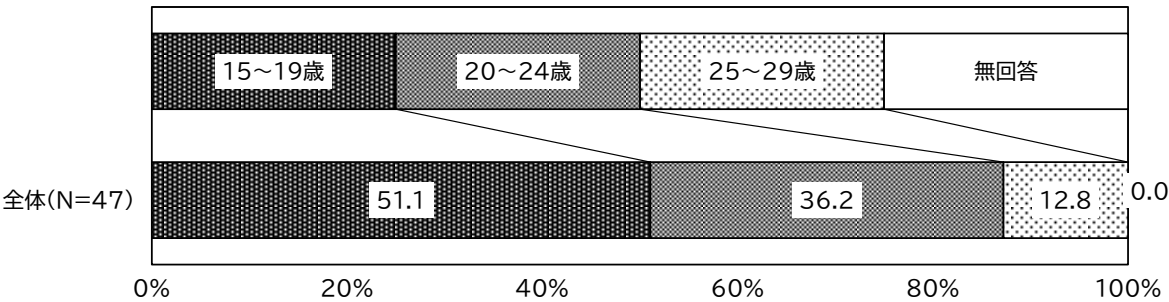
※アンケート調査(若者施設利用者等)については、報告書本文99ページから128ページをご覧ください。

3. ヒアリング調査(若者)

基本属性 (報告書本文134ページ)

年代

「15～19 歳」が51.1%と最も高い。



通っている施設(学校)はどのようなところか

交流の場、落ち着ける場、遊べる場、相談できる場、目的に応じた活動ができる場であるという施設利用者の意見が多かった。

通っている学校については、生徒(学生)と先生の距離が近い、様々なことに挑戦できる人は、様々な団体や人とつながりが持てる、自分が住む場以外の地域を知ることができるといった意見があった。

《その他の主な意見》

- ・ 特別な目的がなくても、皆でご飯を食べたり、ゲームをしたり、ゆったりと過ごせる場所。
- ・ (高校生になって外で遊ぶことは少なくなったが、)外で遊べる貴重な場所。
- ・ スタッフが優しいから通っている。
- ・ 自分と立場が同じような人が集まって、そこに居ていい場所。学校に行って話すことはできないが、知っている友人と話したりして過ごせる自分らしくいられる場所。

調査対象施設・団体等	
児童館中高生支援館(プレスポ)	せたエール
池之上青少年交流センター(いけせい)	障害者就労支援センターすきっぷ
野毛青少年交流センター(のげ青)	発達障害者就労支援センター ゆに(UNI)
希望丘青少年交流センター(アップス)	地域インターンシップ世田谷
情熱せたがや、始めました。	せたがや国際交流センター
昭和女子大学／あいりす	特定非営利活動法人せたがや子育てネット
たからばこ	日本大学文理学部
プレーパーク	都立千歳丘高等学校
メルクマールせたがや	大東学園高等学校
せたがや若者サポートステーション	

世田谷区にどのような場所や施設があるとよいか（報告書本文135ページ）

屋外については、様々な人と交流できる公園がほしいという意見があった。屋内については、幅広い年代を対象とした静かに勉強できる場所がほしいという意見が多かった。また、小中学生を対象とした子どもの居場所だけではなく、高齢者や社会人、地域の人と交流することができる場所がほしいという意見もあった。

① 公園、運動ができる場所
・ 学生が集まることができるような広場があるとよい。 ・ ボール遊びができる公園。 ・ 知らない人や外国人とも一緒にスポーツができるような屋外の場所。
② 勉強する場所
・ 気軽に勉強ができる自習室。 ・ 大人や高校生がのんびり無料で過ごせる場所。大学のオンライン講義も受講できるような静かにのんびり勉強できる場所がほしい。 ・ 自習をすることもでき、大人とも話せる安全な場所。
③ 商業施設・店舗
・ 居心地のよいカフェや飲食店があるとよい。 ・ 学校の近くで学生向けの価格帯で飲食店が利用できるとよい。 ・ 親が子どもを気兼ねなく連れていけて、買い物やフードコートがあるショッピングセンター。
④ 地域交流・コミュニティ
・ 進路相談や悩みがある際に学校以外で、社会人や高齢者など地域の人に相談できる場所。 ・ いろいろな年齢層の人と関われる場所がほしい。 ・ 上京してきた人も利用しやすい、子どもや大人など様々な人が利用している場所。
⑤ 居場所
・ すぐに帰りたくないときに集まれる場所があるとよい。 ・ カフェに入るまでもないけど、ちょっとした隙間時間ができたときに時間を潰せる場所。 ・ 大学生でも「たからばこ」や「あいりす」のように話せる場所。
⑥ その他の施設
・ 地域活動の拠点となるような場所がほしい。 ・ アクセスが良くて、子どもが気兼ねなく使える場所。 ・ 雨の日でも子どもたちが使うことができる施設。

最近の悩み事

経済面や就職活動、学校生活、ライフプランについての悩みの他、人間関係に関する悩みが多くあった。また、困ったときに気軽に相談できる人やシステムを望む声もあった。

- ・ 世田谷区内に住み続けたいと思ってもひとり暮らしをするのは、家賃が高く、物価も高いため金銭的に難しい。
- ・ 部活動がブラックであり、先輩から悪口を言われて、へこんでいた。しかし、部活動をやめたら居場所を失うので、どうしようかと悩んだ。
- ・ 自分のキャリアと結婚して子どもを持つことを天秤にかけると、それがいつになるのかと考えてしまう。
- ・ 異性との出会いの場がないが、マッチングアプリで異性と会うのは怖い。
- ・ アルバイト先に少し苦手な高校生がおり、なぜ自分が苦手だと思うのか考えている。
- ・ ひとり暮らしをしていると、いざというときに頼れるところはどこなのかと不安を感じる。
- ・ 子育てにより、自分の時間がとれない。

など

区に悩みを解決するためにしてほしいこと

悩みを解決するために世田谷区にしてほしいことは、今回のようなヒアリング調査、チャット、LINE、DM 等で相談できる仕組みなどの意見があった。一方、現状で満足しているため特にないという意見も多かった。

① 環境
・ インクルーシブ公園など障害児も受け入れることのできる環境が公的に整備されるとよい。 ・ 通学時に危険を感じるので、自転車用車道を広く整備してほしい。
② 施設
・ 1日中開いていたり、早い時間からでも利用することができる場所があるとよい。 ・ 友人以外の日本人と日本語、英語を使って交流できる場所があるとよい。
③ 相談場所
・ 心理カウンセラーに気軽に相談できる場所があるとよい。 ・ 区から相談先のカードが配られているが、相談したことが広まっても嫌だし、小さいことで相談してよいのかと思い相談できない。電話より、チャット、LINE、DM 等で相談できるとよい。
④ 情報発信
・ ひきこもりになったときに、公的な居場所に救われたので、このような自由に参加できる場所があることを多くの人に知ってほしい。 ・ 祭りとかイベントの情報を YouTube 等で発信してほしい。情報があれば参加してみたいと思う。
⑤ 学校
・ 世田谷区では私立中学校に進学する子どもが多いがその要因として、公立の学校だと教員が忙しく、教育の質もよくないというイメージがある。教育に対して何か手を打ってほしい。 ・ 全日制の高校に通っている生徒が心の病になったときに出席日数や単位などでサポートがあるとよい。
⑥ その他
・ 至る所に防災マップを貼ったり、避難場所の検索システムなどがあるとよい。 ・ 保育士や若者利用施設のスタッフなど、人に寄り添う仕事は大変な面もあり、もう少し給料を上げて欲しい。 ・ 社会人になってからも利用できる「大人の居場所」があるといい。

大人や社会・地域、学校に対して言いたいこと（報告書本文140ページ）

① 地域活動・ボランティア活動について
・ 住んでいる地域でボランティア活動に参加したいが、区外の学校に進学した場合、情報が届かない。 ・ あるボランティア団体に話を聞きに行ったところ、大学生だとフルで参加できないので、断られることがあった。大学生(ゼミ、サークル)をうまく使えば、常に新たな代が入ってくるのに、もったいないと思った。
② 仕事・就職活動について
・ 勤めていた会社から、2週間後に異動を言い渡された経験がある。その時、相談できる環境がなかった。 ・ 一般の大手企業などを受ける友人が、ガクチカを作る(就職活動の面接の際、よくたずねられる「学生生活で最も力をいれたこと」の略称)のために、急にボランティア活動を始めることがある。会社が求める人物像に学生が無理矢理なろうとしているのではないかと思う。
③ ライフプランについて
・ 女性が子どもを産むにはリミットがあるが、同世代の異性とオンライン以外で出会える場所はどこにあるのか。 ・ 同世代(大学生世代)の女性では、「結婚はしなくてもいいかな、子どもも別にいらないかな」と考える人も多い。子どもがほしいと考える若い世代同士で昔のお見合いのように対面で会える場所があるとよい。
④ 外国籍の人について
・ 外国人留学生は身元保証人や収入証明、ビザなどの関係で物件探しが難航してしまう。外国人であることがわかると入居を断られることもある。 ・ (外国籍の)若い世代や日本で子育てをしている外国人などにつながる手段が必要である。
⑤ 政治について
・ 若者が選挙に触れる機会が少ない。なぜ選挙を行っているのか、どこで公約を知ることができるのかなど、政治に興味をもつきっかけ、入口があるとよい。 ・ 若い世代の人が意見を言っても変わらない。(若者の意見を聞いて政治家が)行動をしてくれると思えない。
⑥ 学校について
・ いじめがなくなるとよい。 ・ 教員と校則についてしっかりと話す機会がほしい。もっと生徒の話を聞いてほしい。
⑦ 若者からみた社会について
・ 生徒もルールを守るように努力するので大人も寛容な態度で接してほしい。 ・ 若者にもっとチャンスを与えてほしい。若者の意見が反映され、子ども・若者がやりたいことをバックアップできる世の中になってほしい。
⑧ 子育てについて
・ 子どもだけで遊べる場所が増えてほしい。子どもが気を遣う世の中はよくないと思う。 ・ 第3子を産むときに仕事を辞めて、その後に職を探そうとしたが、面接で子どもが3人いることを伝えると「は？」という顔をされた。フルタイムで働こうとすると「子どもが小さいですね」、「熱が出たら旦那さん、親御さんなど周りに手伝ってくれる人はいますか？」などと聞かれて、なぜそこまで聞かれなくてはいけないのかと考えた。

※ヒアリング調査(支援者)については、報告書本文144ページから147ページをご覧ください。

世田谷区若者調査 報告書【概要版】

令和6年3月発行

発行:世田谷区子ども・若者部子ども・若者支援課
〒154-8504
東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号
電話 03-5432-2585

調査:株式会社生活構造研究所
〒102-0083
東京都千代田区麹町2丁目5番地4
電話 03-5275-7861